

島村喬 しまむら たけし 評論家。大正六年北海道生れ（一九一七）。東洋音楽學校中退後、『讀書新聞』、『滿洲日日新聞』記者。樺太の終戦を迎へシベリヤ抑留、昭和二十一年歸還。日本政治経済研究會常任議長を経て作家生活。

著書『悪の比重』（昭和二十五年十一月一日日本週報社）、『銀ダイヤル奪奪事件』（昭和二十八年十一月二十日新流社）、『シベリヤの女囚たち』（昭和四十一年十一月二十五日宮川書房）、『聖戦―死者のための証言』（昭和四十五年八月十五日新人物往来社）、『秘録化石の兵隊―横井元伍長・極限の一九三八年』（昭和四十七年四月二十五日蕃町書房）、『実録・山河燃ゆ―自派通訳官・伊丹明の生涯』（合著、昭和五十八年十一月二十日ゆまひく）等。

